

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	大淀川流域ネットワーク
活動タイトル	大淀川の絶滅危惧植物の保全活動
活動地域	日本 宮崎県 大淀川河川敷



5月21日 大淀川の絶滅危惧植物を守ろう 春編



7月15日 大淀川の絶滅危惧植物を守ろう 初夏編



9月2日 大淀川の絶滅危惧植物を守ろう 晩夏編

【団体概要】

当団体は、大淀川流域の活動をネットワークとして、流域全体の環境保全を目的に活動している各種団体等の連携を深めるための協議と情報交換、そして人的交流を促進し、流域の健全な環境の向上、文化の振興に寄与することを目的としている。

【活動の目的・目標】

地域住民等と一緒に保全活動を実施し、砂州縮小掘削の予定区域に生育する絶滅危惧種を移植する。身近な場所に生育する絶滅危惧植物を保護することで、大淀川下流域の絶滅危惧種保全の学習の場を形成し、絶滅危惧種と共生することの大切さ・楽しさを知ってもらうことを目指す。

【今回の活動で苦勞した/工夫したこと】

絶滅危惧植物の競争種となるヨシの刈り取り、移植地を日当たりの良い環境を整えた後、その刈り取ったヨシを再利用して植生護岸を作成し、移植地水際の浸食防止に活用した。しかし、大雨災害が数回あり、川の増水で浸水した際に浮いて外れそうになった箇所があったため、土のう袋でより強固に補強した。

【活動の内容・成果】

開催回数：3回

参加人数：168+56+43=267名

達成率：70%

開催：5月21日、7月15日、9月2日

場所：大淀川 天満橋下河川敷

参加者：地域住民、学生、当団体スタッフ、
国土交通省宮崎河川国道事務所

内容：

- ①河川整備計画で掘削される砂州に生育しているタコノアシを天満橋下砂州へ移植
 - ②競争種となるヨシやヤナギの除草
 - ③刈り取ったヨシを再利用して植生護岸の作成、さらに土のう袋での補強
 - ④護岸上に生えた外来種の除草
 - ⑤ミゾコウジュが多数確認されたため、踏まれないように安全な場所への移植
- 作業班毎に分かれて、絶滅危惧植物が天満橋下砂州で育ちやすい環境を確保できた。

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



6月14日 保全活動 春編後の経過観察

ウマスゲの生育地は水位が上がると水が入ってくる場所のため、タコノアシの生育地と同じように植生護岸を設置して保護した。8月の台風時に壊れることなく浸食防止することができていた。



「植物保全中」カードの設置

経過観察の際に、誰かが移植地付近の小川の土を掘り荒らした箇所が見られた。絶滅危惧植物を保全している場所の傍であったため、後日、宮崎河川国道事務所に許可を貰い、移植地の数ヶ所にカードを設置し、地域住民からも理解してもらえるように工夫した。



階段護岸上の土剥がし作業

8月の台風で川が増水した際に砂州が水没し、天満橋下の階段護岸は泥が溜まって、歩くと大変滑りやすい状態になっていた。保全活動の際に参加者が転んで怪我をしないように、スタッフが事前にスコップで土剥がしを行った。



9月20日 保全活動 晩夏編後の経過観察

競争種の刈り取りを行った場所は、日当たりが良くなり、タコノアシが元気に生育していて、3回目の保全活動の際は葉だけだったが、白色の花が咲いていた。秋の紅葉に向けて、全体的に少しずつ緑から赤へ色が変わりつつある様子も見られた。